

地域住民が気軽に集い、交流できる場を創出したい――

こだわりのコーヒーとホットドッグが自慢の古民家カフェ。渡村さんは、子育てしながらも空き家の再生に取り組み、地域に暮らす同世代の母親たちが気軽に集える「居場所」を創造しています。

【人々を引き寄せる力】

「いらっしやいませ」と笑顔であいさつされるのは、和風家屋の玄関先。その奥には、アンティークなど洋風の調度品が目を引く空間が広がります。渡村さんは今年4月、家族や仲間と一緒に作り上げた古民家カフェを、島田市と藤枝市の境に開店しました。

「子どもが保育園に通うようになり、同世代のママたちと知り合い、感じたんです。多くの女性が、職業にできる



ほどの素敵な特技を持ちながら、さまざまな理由で趣味に留めてしまっているなんて。だから漠然と、そんなママたちが集まれ

ば人を引き寄せる力が生まれるだろうし、その場所を創ることを私の仕事にしたいと思うようになりました」

【退路を断った出会い】  
ビジネスとは無縁だった

や理論的な考え方を聞かせてもらうことで、もう一歩進む決心ができました。そして、市産業支援センター『おびサポ』での融資相談をきっかけに、前だけ向いて起業を加速させることができました」



主婦が活躍する古民家カフェの創業者  
とむらめぐみ  
渡村 恵さん（東町）

渡村さん。一念発起して参加した起業塾と市の創業サポートが、背中を押してくれたと振り返ります。

「塾生は、みんな本気です。普段なら決心が揺らいでしまう私も、現実味のある意見

教えた人と教わりたい人に場所を提供するだけでは、公民館と変わらない。子連れで息抜きするのに苦労した経験から発想した「場」の付加価値は、古民家と飲食業という、どちらも未知の世界でした。

【新たな交流を生む場】

口コミが客層を広げ、3世代交流も始まっているというカフェ。素人ながらも開店できたのは、家族と仲間、そして地域が導いてくれた「出会い」だと回想するその表情には、笑みが浮かびます。

「居場所として選んだ物件は、空き家だった築50年ほどの和風家屋。家族や友人の力を借りながら、自分たちの手でリノベーションに挑戦しました。店名のノイ (new) とは、ドイツ語で『新しい』という意味。古い家が新しく生まれ変わること、新しい物事や出会い、人との交流が生まれる空間になってほしいという想いを込めました。スタツフは皆、地元つながりで知り合えた、家庭を持つ女性です。店への意見を自然に交換できるし、育児への理解を得やすいのが何より。働く側も居心地がいいんです」

空き家と賑わいの再生が、地域の人口減少や関係の希薄化の打開策の一つだと話す渡村さん。一方で、母親としての眼差しは、常に子ども



ワークショップを開くために作った部屋では、多様な講座を開催中。詳しくは、QRコードからフェイスブックで。



Shimadajin File #75

Story 島田人